

第 52 回国立大学法人動物実験施設協議会総会の参加報告

医学系室生命科学実験班 畠山 照彦

1. はじめに（目的等）

国立大学法人動物実験施設協議会は、大学等における動物実験の精度と水準の向上を図るとともに、適正な動物実験の実施を推進し、医学・薬学・生物学等生命科学における教育及び研究の推進に寄与することを目的としている。本総会は年に一度開催され、会員校関係者（施設長・専任教員・事務職員・技術職員）が集まり、サテライトミーティングや懇談会等を通じて情報共有・意見交換を行うとともに、総会において各種審議を行う場である。

2. 期間・場所

期間：令和 8 年 6 月 11 日（木）～ 6 月 12 日（金）

場所：福井県織協ビル（福井県福井市）

3. 参加者等

国立大学法人動物実験施設協議会会員校の施設長・専任教員・事務職員・技術職員等

4. 研修内容

○6 月 11 日（木）18：00 - 19：30 サテライトミーティング

- ・宇宙環境における重力適応と前庭系の可塑性
- ・エピジェネティクスの基礎研究と創薬応用

○6 月 12 日（金）9：00 - 12：00 技術職員懇談会

テーマ：「動物実験とデジタル技術」

主な内容

- ・AI・XR・3D プリントによる 3Rs の実践
- ・生成 AI の施設運営・業務支援への活用
- ・マーマセット行動データのデジタル化
- ・3D モデリング技術の研究応用

○6 月 12 日（金）13：00 - 17：00

総会

5. まとめと感想

サテライトミーティングでは、宇宙環境における重力適応機構やエピジェネティクス研究など、基礎研究から応用研究まで幅広いテーマが扱われた。特に、生体の適応機構や遺伝子発現制御が医療・創薬へと結びつく点が示されており、基礎研究の重要性を再認識した。

技術職員懇談会では、AI や XR、3D プリンティングなどのデジタル技術を活用した 3Rs の実践事例が紹介され、教育・研究・施設運営の効率化に寄与する可能性が示された。特に、生成 AI を用いた業務支援やデータ解析の高度化は、今後の動物実験施設運営において重要な要素になると感じた。

本総会を通じて、動物実験分野が従来の手法に加え、デジタル技術や代替法を組み合わせながら発展していく過程にあることを実感した。また、他大学の技術職員との情報交換も有意義であり、今後の業務改善や連携強化に活かしていきたい。

以上